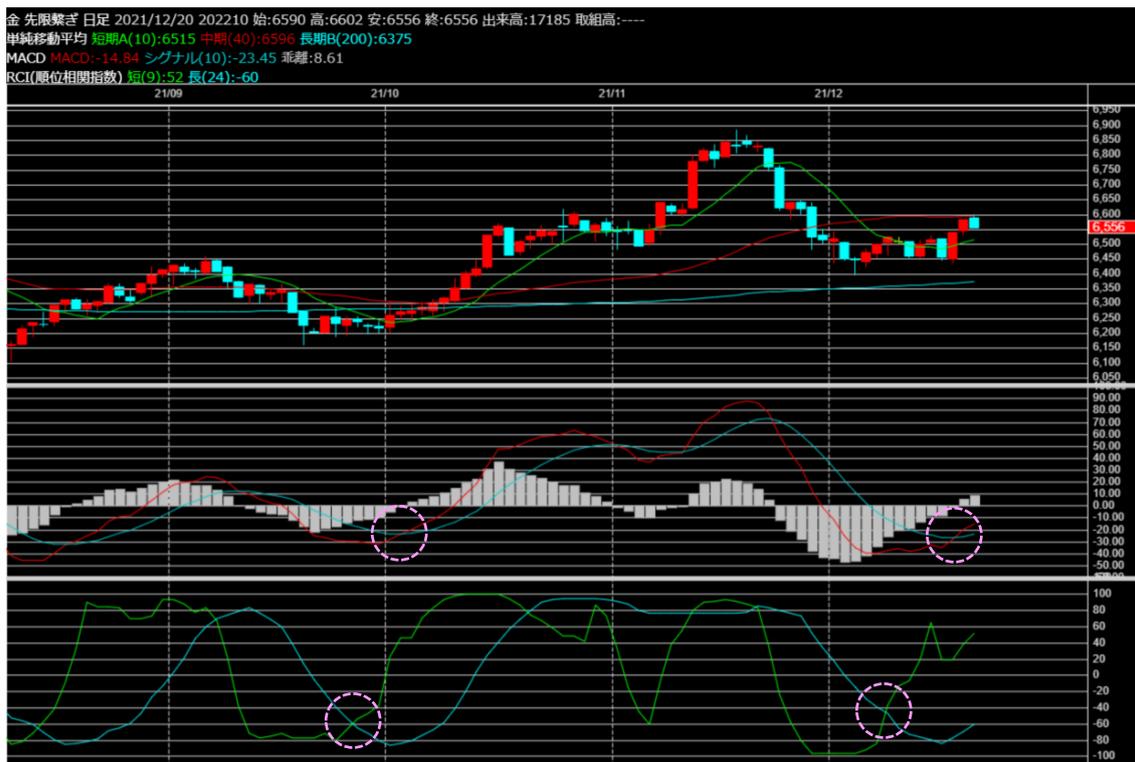


＜金標準先物、出尽くし相場で10月の再来から6650円へ・・・＞



(出所：オアシス)

FOMC で月間 300 億ドルの国債買い入れ策の倍増削減、2022 年における 3 回の利上げ予想などテーパリングの加速を示している。また ECB 理事会はパンデミック緊急プログラム (PEPP) を来年 3 月に終了を発表、G7 内で唯一イングランド銀行は利上げを実施、日銀も新型コロナ対策の資金供給を来年 3 月に終了を発表している。そのため多くの中銀がタカ派的な金融政策を示した事で、今以上のタカ派の要因は見当たらない事から市場はリスクの巻き戻しを進め、長期 10 年債の金利は逆に低下し、金利を生まない NY 金も買い戻しから FOMC 以降は 100 ドルの反発を見せている。

特に今週末はクリスマス休暇を控え、ポジション調整の巻き戻しの動きは継続する可能性は高く、FOMC や各国の金融政策を織り込み金標準先物も 6650 円へ向けた巻き戻しの相場を続けると予想される。特に台湾情勢やウクライナ情勢を受けた地政学的なリスクは高まりを見せている事から、10 月同様にインフレ高や中国不動産リスクの高まりや天然ガス供給懸念を受けたリスク逃避の高値追いと同様な値動きを行って来ると予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では MACD が上昇し、下げ渋ったシグナルを上回る動きを見せ、RCI でも短期が高値を維持しながら、長期は上昇に変化しており、テクニカルにおいても 10 月の再来と同じテクニカルのパターンが類似している事からも 6650 円へ向けた高値追いが予想され、買いの対応が無難に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 308,500 円(2021 年 12 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2021 年 12 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>